

管理栄養士・栄養士

第 1 現状と課題

1 管理栄養士・栄養士の従事状況

- 令和 4 年度（2022 年度）末現在、管理栄養士・栄養士の配置率は、保健医療福祉関係の給食を提供する施設で 92.6%ですが、それ以外の特定多数の者に給食を提供する施設で 53.2%、市町村で 93.5%です（表 1）。
- 近年、栄養ケア・ステーションを活用した訪問栄養管理・指導の需要増加や、診療報酬におけるオンライン栄養指導の新設など、管理栄養士・栄養士の求められる場面は多様化しています。
- そのため、時代の要請に対応して、適切な栄養管理、指導等ができる管理栄養士・栄養士の確保充実が必要です。

【表 1】管理栄養士・栄養士の配置率

（単位：%）

	平成 18 年	平成 23 年	平成 28 年	令和元年	令和 4 年
保健医療福祉関係の給食を提供する施設*1	93.2	96.7	96.1	94.6	92.6
上記以外の特定多数の者に給食を提供する施設*2	43.7	42.9	44.7	47.6	53.2
市町村	85.6	89.6	90.9	93.5	93.5

（衛生行政報告例・行政栄養士等配置状況）

- *1 保健医療福祉関係の給食を提供する施設とは、病院、介護老人保健施設、老人福祉施設、社会福祉施設
- *2 上記以外の給食を提供する施設とは、学校、保育所等児童福祉施設、事業所、一般給食センター等

2 管理栄養士・栄養士の養成と育成

- 令和 5 年度（2023 年度）現在、県内には管理栄養士養成校が 2 校、栄養士養成校が 2 校あり、そのうち長野県立大学では、平成 30 年度（2018 年度）から健康発達学部食健康学が新設され、管理栄養士・栄養士の育成を推進しています。
- 県においても、常勤管理栄養士を講師として養成校へ派遣したり、養成校のインターンシップ生を受け入れることで、行政における管理栄養士・栄養士の役割を学生へ涵養しています。

【表 2】長野県内の管理栄養士・栄養士養成校 学生現在員数と卒業数

（単位：人）

	現在員数（令和 5 年度）				卒業者数 （令和 4 年度）
	1 年	2 年	3 年	4 年	
管理栄養士養成校	105	109	105	103	84
栄養士養成校	194	88			78

第2 施策の展開

管理栄養士・栄養士の確保と資質の向上

- 管理栄養士・栄養士の求められる場面は多様化していることから、長野県栄養士会、養成校等と連携協力し、時代の要請に対応できる管理栄養士・栄養士の育成や確保を図ります。
- 市町村等の行政に携わる管理栄養士・栄養士を対象とした研修会を開催し、健康づくり、母子保健、高齢福祉など様々な部署で、管理栄養士・栄養士が栄養指導や食育等の施策を効果的に展開できるよう、資質の向上を目指します。
- 医療法施策規則の一部改正する省令（令和5年厚生労働省令第73号）により、病院等の人員配置について、管理栄養士・栄養士が医療従事者として位置づけられたため、今後は国の動向を注視しながら、施策を検討します。

第3 数値目標

	指 標	現状 (2023)	目標 (2029)	目標数値 の考え方	備考 (出典等)
S	管理栄養士・栄養士の配置率				
	・ 保健医療福祉関係の給食を提供する施設*1	92.6% (2022)	92.6%以上	現状の水準以上を目指す。	衛生行政報告例
	・ 上記以外の給食を提供する施設*2	53.2% (2022)	53.2%以上	現状の水準以上を目指す。	
	・ 市町村	93.5% (2022)	93.5%以上	現状の水準以上を目指す。	行政栄養士等配置状況

注）「区分」欄 S（ストラクチャー指標）：医療サービスを提供する物的・人的資源及び組織体制等を測る指標

*1 保健医療福祉関係の給食を提供する施設とは、病院、介護老人保健施設、老人福祉施設、社会福祉施設

*2 上記以外の給食を提供する施設とは、学校、保育所等児童福祉施設、事業所、一般給食センター等

※ 医療法施策規則の一部改正する省令（令和5年厚生労働省令第73号。令和5年4月28日交付及び告示、同年5月1日から施行及び適用）により、病院等の人員配置について都道府県知事に報告することとされる医療従事者の職種に管理栄養士・栄養士が追加された。そのため必要に応じて、医療計画の中間見直し等で、新たな指標を検討する予定。

栄養ケア・ステーション

栄養ケア・ステーションは、食・栄養の専門職である管理栄養士・栄養士が所属する地域密着型の拠点です。地域住民の方はもちろん、医療機関、自治体、健康保険組合、民間企業、保険薬局などを対象に管理栄養士・栄養士をご紹介します。用途に応じた様々なサービスを提供します。

高齢化社会を迎え、高齢者人口が増加している現在、疾病予防や介護予防が重要となってくることから、フレイル（虚弱）や低栄養状態にならないためにも、適切な栄養管理が誰にでも受けられる体制が必要となり、栄養ケア・ステーションの需要は高まっています。